

2013年(平成25年)4月1日(月曜日)



初めて登ったのは中学二年のころ。沼津市の千本浜で



五歳から三島市に住み、ずっと眺めていた富士山に

富士山が世界文化遺産になることは素晴らしいが、単なる客寄せではなく、環境と観光が共生するため、開発を抑止する覚悟の証しとなつてほしい。

環境保護の議論必要

くんだ海水二十リを背負い、一週間かけて登頂し、以降は、NPO法人富士山クラブなどの活動で、六十三回登っている。

二十三年前から環境問題に取り組み、ごみ拾いをし、ただ、世界遺産登録の前に、富士山の環境を守る恒久的な管理システムや計画について、もっと議論が必要だと感じている。百年先、五百年先まで、子どもが美しいと思つ富士を残さなければいけない。

渡辺 豊博さん(62)

野の産業廃棄物など、日本の象徴を国民が汚している現実を見た。二〇〇二年に、行政から一銭ももらわず、浄財と企業から四千万円を集めて山頂にバイオト

イレを設置。NPO法人グランドワーク三島でも、富士山周縁の湧水池の実態調査や、監視するための人材育成に取り組んでいる。 (三島市加茂、NPO法人グランドワーク三島専務理事)